

点検検証部会第1ワーキンググループ第2回会合 議事概要

1 日 時 平成31年4月3日（水）9:00～12:00

2 場 所 総務省第二庁舎 3階 第1会議室

3 出席者

【委 員】

河井 啓希（座長）、川崎 茂

【専門委員】

大西 浩史、篠 恭彦

【説明者（各府省等）】

経済産業省

【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官、平野大臣官房審議官、澤村統計審査官

統計委員会担当室：櫻川室長、永島次長、阿南次長、柴沼次長

4 議 事

（1） 経済産業省の基幹統計調査について（ヒアリング）

（2） その他

5 概 要

（1） 経済産業省の基幹統計調査について（ヒアリング）

事務局から、資料1-1に基づき総括的な説明が行われ、ヒアリングが実施された。

主な発言は以下のとおり。

- ・事業所や相手方に、調査が来ましたか、という確認は行われているか。
→国が直接確認する取組までは行っていないが、当該地方公共団体から事後報告してもらって、把握している。
- ・オンライン回答率について、ある特定の業種は70%程度だが他は10%台となっていて低調。紙の方が楽なのでオンライン率が上がらないのだろうか。どうしても紙の方がやりやすいという発想があるのか、見解をお教え頂きたい。
→調査項目が多岐にわたる調査票によっては報告者である事業所で複数の部署に関係しており、該当している部署に紙のコピーを配付し、それぞれ記入してから ID を持っている窓口担当者がまとめてオンラインシステムに入力しているケースもあり、紙の方が効率よい場合もあるとの意見もある。セキュリティが管理され、各部署が必要な入力項目のみ入力が可能になれば、オンライン化はもう少し進むと思われる。
- ・公表後の誤り発見時に、原因が究明され、マニュアルに追記されたら終了となるのか。そ

れとも、更に業務上の留意点を周知するとか、後々にも引き継いでいけるような仕組みは考えられているか。

→ミスが発生した場合に報告するフォーマットが決まっており、いつ、誰が気づき、統計作成プロセスのどこの段階でのミスか、原因は何か、再発防止策をどうするのかを記録し、内容を各職員に共有している。

- ・そのフォーマットのサンプルをお示し頂きたい。職員研修の材料にも活用するのも一策。
- ・毎月速報を公表している調査において、公表後の数値に影響する事案をまとめ、年間補正として公表している点は、他調査でも参考になる。どのような仕組みか。

→動態統計では、概ね1月分確報公表時点で前年の数値について、各月の確報公表以降に報告者から寄せられた数値の訂正や集計以降に調査票の提出があった場合などを含めデータ修正を過去1年間遡及して実施しており、これを「年間補正」と称している。これは、一次統計にとどまらず、IIPなど二次加工統計でも同様であり、指数で公表しているものは、原指数に年間補正のルールを適用している。更に、季節調整済指数の場合は、当初は暫定の季節指数を用いて計算しているが、当該年の数値が固まった年間補正後の段階で新たに季節指数の再計算を行い、季節調整済指数を作成し直すことも含めて「年間補正」という形で公表している。

- ・工業統計では平成27年に数値訂正の事例が多く出てきて、28年以降は一切でていないのか。それとも、潜在化しているのか、どのように評価すればよいか。
- ・数値誤りの再発防止策として、「ダブルチェック」が多いが、相手が見ていると思ってチェックが甘い結果になりがち。システム等の自動化による対応も考える必要がある。
- ・フリー記入欄の情報を産業分類格付に用いる場合もあるが、その部分は電子化していないので、所定の期間経過後は廃棄している。
- ・紙の調査票は数年で破棄しているが、調査票の情報として入力した電子媒体は永年保存されているので、何かあったら、それで確認や復元も可能。
- ・一般統計を作っているいろいろな部門への支援という面でどのような活動をしておられるのか。コンシェルジュと呼ばれる統計幹事の活動について知見をいただきたい。

→「統計コンシェルジュ」を設置して、一般統計の作成、統計の利用を行っている政策部局を支援している。政策部局から要請があれば対象者が一人でも研修を出前で実施したり、統計作成や利用の相談に乗ったりしている。母集団の設定方法など年間200件程度相談を受けている。

- ・省内で汎用的に統計の審査・作成に利用できるシステムを開発。時系列審査に有用で、他の統計の審査に応用できるのではないか。

→ある意味では共通化して使った方がよいが、いろいろな統計でそれぞれ特異な調査項目もあり、審査の仕方も違うのでそういった問題については別のプログラムなりを入れる必要がある。このシステムは、将来的に各省庁が利用していける形に持って行くための材料の一つとしてご認識いただければと思う。

(2) その他

座長より、加工統計のヒアリングは第2ワーキンググループにおいて一括して実施することが提案され、委員に了承された。

事務局から次回の日程について報告があった。

(以 上)

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>